

# 彙報

会長 福井直樹

## ——常任委員会——

### 2021年度第1回常任委員会

日時：2021年5月22日（土）13:00～18:00

場所：オンライン

出席者：福井直樹（会長）、有田節子、上山あゆみ、太田真理、北原久嗣、北原真冬、桐生和幸、酒井弘、菅原彩加、成田広樹、原田なをみ（以上、常任委員）、石井透（事務局長）

オブザーバー：伊藤さとみ（大会運営委員長）、呉人恵（編集委員長）、那須川訓也（広報委員長）、渡辺己（夏季講座委員長）、酒井弘（学会賞選考委員長）、松本曜（倫理副委員長）、佐々木冠（国際発信力強化小委員長）、秋庭大悟、小林ゆきの（以上事務局委員）

（欠席：奥聡 常任委員）

#### [審議事項]

- (1) 今期の組織・役員について
  - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
  - ・以下の予定が報告された。
  - 第162回大会（2021年春季大会）：2021年6月26日～27日、早稲田大学（大会実行委員長：酒井弘氏）
  - 第163回大会（2021年秋季大会）：2021年11月20日～21日、オンライン
  - 第164回大会（2022年春季大会）：日程未定、オンライン
  - 第165回大会（2022年秋季大会）：日程未定、沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡敏氏）
- (3) 各種委員会からの報告
  - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 事務局からの報告

1. 『言語研究』の公開入札について
  - ・昨年度と同様に、今年度も実施予定である。
2. 今年度のメルマガスケジュールについて
  - ・今年度のメールマガジンの配信予定内容を確認した。
3. 日本学術振興会学振賞について
  - ・1名を推薦した。
4. 日本学術振興会育志賞について
  - ・該当者がなく推薦を見送ることが報告された。
5. 人間文化研究機構日本研究国際賞について
  - ・1名を推薦予定である。
- (5) 会長講演及び言語研究掲載時期について
  - ・2021年度の会長講演は秋季大会で行う。
  - ・2021年度以降、会長講演は言語研究9月号ではなく翌年の3月号に掲載することにする。
- (6) 科研費の予算について
  - ・各種委員会の予算において科研費からの支出を予定している項目の有無を確認した。
- (7) 2021年度言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト（採否）について
  - ・3件の申請について、メール審議により1件を採択としたことが報告された。
- (8) 2020年度言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト実施報告について
  - ・2件のプロジェクトの実施報告書、会計報告書を確認した。

#### [審議事項]

- (1) 2020年度決算について
  - ・2020年度決算書について検討を行い、それを承認した。
- (2) 2021年度予算について
  - ・2021年度予算について審議し、予算案を作成した。
- (3) オンライン対応のための大会運営委員の増強について
  - ・オンラインでの大会開催のために大会運

営委員を増強することが提案され、会則に従い、大会運営委員長が会長と協議して指名委嘱することが承認された。

#### (4) 倫理委員会規程について

- ・昨年度承認された倫理委員会に関わる会則及び倫理委員会規程、倫理委員会内規、倫理調査委員会規則の修正が確認され、それに伴い新たに提案された会則の修正案を検討し、承認した。

### ——評議員会——

#### 2021年度第1回評議員会

日 時：2021年6月25日（金）15:00～17:00

場 所：オンライン

出席者：福井直樹（会長）、青木博史、有田節子、五十嵐陽介、石井 透、伊藤たかね、上山あゆみ、江口 正、江畑冬生、大沢ふよう、荻野綱男、奥 聡、尾谷昌則、小野尚之、小野 創、風間伸次郎、加藤重広、河内一博、岸本秀樹、北原久嗣、木部暢子、Catt Adam、窪菌晴夫、窪田悠介、呉人 恵、小泉政利、小林正人、酒井 弘、佐々木冠、杉崎鉦司、滝浦真人、田窪行則、竹沢幸一、千田俊太郎、塚本秀樹、中川 裕、長屋尚典、中山俊秀、那須川訓也、野田尚史、長谷川信子、林 徹、林 範彦、早津恵美子、広瀬友紀、堀江 薫、松浦年男、松本 曜、山越康裕、由本陽子、吉田和彦（以上、評議員50名）

委任状：13名

オブザーバー：藤代 節、米田信子（会計監査委員）、伊藤さとみ（大会運営委員長）、渡辺 己（夏季講座委員長）、秋庭大悟、小林ゆきの（以上、事務局委員）

#### [報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
  - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
  - ・以下の予定が報告された。第162回大会（2021年春季大会）：2021

年6月26日～27日、早稲田大学（大会実行委員長：酒井弘氏）

第163回大会（2021年秋季大会）：2021年11月20日～21日、オンライン

第164回大会（2022年春季大会）：日程未定、オンライン

第165回大会（2022年秋季大会）：2022年11月12日～13日、沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡敏氏）

#### (3) 各種委員会からの報告

- ・本彙報の各委員会の項目を参照。

#### (4) 事務局からの報告

1. 『言語研究』の公開入札について  
6月8日に開札を行った結果、今年度も『言語研究』の印刷を中西印刷に委託することが決定した。

2. 今年度のメルマガスケジュールについて  
今年度のメールマガジンの配信予定内容を確認した。

3. 日本学術振興会学振賞について  
1名を推薦した。

4. 日本学術振興会育志賞について  
該当者がなく推薦を見送ることが報告された。

5. 人間文化研究機構日本研究国際賞について  
1名を推薦予定である。

#### (5) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト（採否）について

- ・3件の申請について、1件を採択としたことが報告された。

#### (6) 2020年度言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト実施報告について

- ・2件のプロジェクトについて、提出された実施報告書および経理報告書の確認を行い、問題がなかったことが報告された。

#### [審議事項]

- (1) 選挙管理委員の選挙について
  - ・選挙規則に基づき投票した結果、下記の4名が選挙管理委員として選出された。有田節子（立命館大学）、梅谷博之（明海大学）、加藤重広（北海道大学）、小泉

政利（東北大学）。なお辞退者が出た場合には、伊藤たかね（東京大学）、青木博史（九州大学）、広瀬友紀（東京大学）の三氏をこの順で選挙管理委員とすることが決定された。

- (2) 2020 年度決算について **【別表 1 参照】**
  - ・2020 年度決算案について説明がなされた後、上山あゆみ・加藤重広会計監査委員より適正との報告があり、原案通り承認された。
- (3) 2021 年度予算について **【別表 2 参照】**
  - ・2021 年度予算案について検討を行った結果、原案通り承認された。
- (4) 『言語研究』の刊行スケジュールの変更について
  - ・編集委員会より提案された『言語研究』の刊行スケジュールは現行の9月、3月発行から7月、1月発行に変更する案について検討し、承認した。
- (5) オンライン対応のための大会運営委員増強について
  - ・オンラインでの大会開催のために大会運営委員を増強することが提案され、会則に従い、大会運営委員長が会長と協議して指名委嘱することが承認された。
- (6) 会長講演及び言語研究掲載時期について **【別記】**
  - ・2021 年度の会長講演を秋の大会で行い、『言語研究』の3月号に掲載することが承認され、それに伴う会則の変更について検討し、承認した。
- (7) 会則・倫理委員会規程の改訂について **【別記】**
  - ・昨年度承認された倫理委員会に関わる会則及び倫理委員会規程、倫理委員会内規、倫理調査委員会規則の修正が確認され、それに伴い新たに提案された会則の修正案を検討し、承認した。

——編集委員会——

1. 委員交代

2021 年 4 月 1 日より編集委員が交代した。新委員は、呉人 恵（委員長）、青木博史、

安藤智子、江畑冬生、加藤重広、小西いずみ、小山哲春、土橋善仁、中川 裕、長屋尚典、野村益寛、広瀬友紀、宮本陽一。

2. 2021 年度第 1 回編集委員会

日 時：2021 年 4 月 10 日（土）（オンライン会議）

〔審議事項〕

- (1) 編集委員会の構成について
 

効率的な運営を図るために、投稿者の窓口となる OFFICE と査読者の窓口となる担当委員に分けることを審議・了承した。
- (2) 『言語研究』刊行スケジュールについて
 

163 号より、従来の3月、9月刊行を1月、7月刊行に変更することを審議・了承した。
- (3) 審査の手順について
 

学会 HP の投稿システム Editorial Manager の操作方法について検討した。

3. 特集論文の告知

162 号（2022 年 9 月刊行予定）の特集論文のテーマを「類別詞の多様性」と定め、2021 年 4 月に学会 HP で告知を開始した。

——大会運営委員会——

2021 年度第 1 回大会運営委員会

日 時：2021 年 4 月 10 日（土）10:00 ～ 13:00

場 所：Zoom

出席者：伊藤さとみ（大会運営委員長）、小磯花絵、成田広樹、宮地朝子、林範彦、江畑冬生、星 英仁、金 廷珉、大島デヴィッド義和、品川大輔（大会運営委員）

〔報告事項〕

- (1) 第 161 回大会（Zoom）の終了報告が大会運営委員長よりなされた。
- (2) 第 162 回大会（Zoom × 早稲田大学）に関する準備状況が大会運営委員長より

報告された。

#### [審議事項]

- (1) 第162回大会における研究発表の採否について審議した。応募用紙の審査結果に基づき、口頭発表48件(応募67件)、ワークショップ3件(応募3件)、ポスター発表2件(応募2件)を採択することとした。
- (2) プログラムの編成を行った。口頭発表は1日目に6会場6本、午前中に3発表、午後6発表とし、Zoomミーティングで開催することを決定した。さらに、各発表を振り分け、会場担当の委員ならびに司会者候補を決定した。
- (3) 2日目午前中にZoomミーティングでワークショップを行い、午後には会長挨拶と授賞式及び公開シンポジウムをZoomウェビナーで行うことを決定した。

### ——広報委員会——

1. 学会からのお知らせ(大会情報、論文賞、発表賞など)と学会関連情報(公募情報、研究会情報など)を随時更新した。
2. 新年度になり役員に変更があったため、「トップ>日本言語学会について>会長挨拶/学会の基本方針/組織・役員等」の情報を更新した。
3. 「日本言語学会広報委員会SNS運用方針」および「広報委員会SNS運用の詳細」を広報委員会の議を経て正式に定めた。
4. Twitterで紹介する『言語研究』の過去掲載論文を、広報委員会の議を経て決定した。

### ——夏期講座委員会——

2021年5月メール審議にて2022年夏期講座について議論し、以下にあげる案を承認し、その後、拡大常任委員会承認を受けた。

- ・2022年の夏期講座は予定通り東北大学でおこなう。
- ・開催の形式はハイブリッド(対面+オン

ライン)とする。

- ・オンラインでの配信および受講の負担を考えると、従来より規模を縮小し、1日3コマ、並行して3講義、合計で9科目を提供し、全体で5日間とする。そのうち1日は、従来、夜におこなっていた講演会・研究発表会などにあてる。(従来は1日4コマ、並行して3講義、合計12科目。6日間。)
- ・配信・受信トラブルに備える意味も含め、録画したものを開催終了後1週間程度見られるようにする予定。
- ・東北大学文学研究科と共催とする。
- ・受講料は規模の縮小に伴い従来よりも減額することを検討する。

### ——倫理委員会——

#### 2020年度第2回倫理委員会

日時 2020年10月20日(火)19:00~20:00

場所 Zoom開催

- (1) 2020年4月~9月までの倫理委員会で行ったことの報告と引き継ぎを行った。
- (2) 次期副委員長に伊藤たかね氏を推薦した。

#### 2020年度第3回倫理委員会

日時 2021年1月20日(水)17:00~

場所 Zoom開催

2020年度前期に会長に提出した答申に対する会長からの回答を受けて、1)言語学会会則、倫理委員会規程、倫理調査委員会規則、倫理委員会内規の改訂を行うこととした。また、2)懲罰委員会の設置と、人を対象とした実験調査研究に関する新たな答申について検討することとした。懲罰と実験調査に関するワーキンググループを委員会内に作り、答申案を作成することにした。

#### 2020年度第4回倫理委員会

日時 2021年2月20日(土)18:00~

場所 Zoom開催

- (1) 言語学会会則、及び倫理委員会規程の改訂案について検討し、以下の変更を加

えることとした。倫理委員会長を会長が兼任するのをやめ、会長が先任の倫理委員の中から指名委嘱する形にする。新たに副委員長を設け、会長が個人会員の中から委嘱する。

- (2) 倫理委員会内規について検討し、新たに、調査委員会による調査の方法、および調査に関わる資料の保存・廃棄について定めた。
- (3) 倫理調査委員会規則について検討し、新たに、調査委員長を選出方法を定めた。
- (4) 懲罰委員会設置に関する答申案を検討し、以下の内容を含めることとした。懲罰委員会は設置せず、常任委員会あるいは評議員会を懲罰の最終処分決定組織とする。処分の対象となる会員がこれらに含まれる場合には、除外して決定をおこなう。
- (5) 人を対象とした研究に関する答申案を検討した。以下の内容を含めることとした。

日本言語学会倫理綱領に新たな条項をもうけ、実験・調査における倫理性の重要性について記載する。また、学会誌の投稿、および学会発表の審査に関して、チェックリストの提出を導入する。

その後の2月25日のメール審議において、以上の改訂案の最終案をすべてを承認した。

## ——国際発信力強化小委員会——

- (1) 2020年度に英訳された会長就任記念論文5本(田窪先生、梶先生、影山先生、上野先生、庄垣内先生)を組み版したPDFを作成しJ-Stageで公開する準備を進めている。並行して新たに会長就任記念論文5本(柴谷先生、梅田先生、松本先生、小泉先生、国広先生)の英訳・校閲作業を進めている。2021年度は合計10本の英文化論文を公開する予定である。
- (2) 2020年度と同様の英語要旨執筆ワークショップと講演会を計画している。

## ——事務局——

### 2020年度会計監査

日時：2021年5月28日(金)13:00～17:00

場所：日本言語学会事務支局(中西印刷学会フォーラム)

出席者：上山あゆみ、加藤重広(以上2020年度会計監査委員)、有田節子(2020年度事務局長)、国料尚子(事務支局)

感染防止のため、会計監査委員2名はオンラインで参加した。上山あゆみ、加藤重広両委員により2020年度決算書と関係書類について監査が実施された。

## 【別記】「日本語学会会則」の変更

○第2章「会員」第10条に会員資格の停止に関する項目を追加

《旧》	《新》
第10条 会員は、諸種の会合および事業の通知を受け、機関誌の配布を受ける。また、事業に参加することができる。	第10条 会員は、諸種の会合および事業の通知を受け、機関誌の配布を受ける。また、事業に参加することができる。
2 個人会員は、所定の手続を経て、研究集会または機関誌上においてその研究を発表することができる。	2 個人会員は、所定の手続を経て、研究集会または機関誌上においてその研究を発表することができる。
3 個人会員は、会長、編集委員長、会計監査委員、評議員の選挙権および被選挙権を有する。ただし、外国在住の会員は、当分の間、選挙権および被選挙権を有しない。学生会員は、選挙権および被選挙権を有しない。	3 個人会員は、会長、編集委員長、会計監査委員、評議員の選挙権および被選挙権を有する。ただし、外国在住の会員は、当分の間、選挙権および被選挙権を有しない。学生会員は、選挙権および被選挙権を有しない。
	4 <u>会員は、別に定める「日本語学会倫理綱領」を遵守しなかった場合、会員資格が停止されることがある。</u>

○第3章「役員」第11条に倫理委員長を追加

《旧》	《新》
第11条 本会に次の役員を置く。 会 長……1名 事務局長……1名 事務局委員……若干名 常任委員……若干名 評議員……約70名 編集委員長……1名 編集委員……若干名 大会運営委員長……1名 大会運営委員……若干名 広報委員長……1名 広報委員……若干名 夏期講座委員長……1名 夏期講座委員……若干名 学会賞選考委員長……1名 学会賞選考委員……若干名 倫理副委員長……1名 倫理委員……7名 顧 問……若干名 会計監査委員……2名	第11条 本会に次の役員を置く。 会 長……1名 事務局長……1名 事務局委員……若干名 常任委員……若干名 評議員……約70名 編集委員長……1名 編集委員……若干名 大会運営委員長……1名 大会運営委員……若干名 広報委員長……1名 広報委員……若干名 夏期講座委員長……1名 夏期講座委員……若干名 学会賞選考委員長……1名 学会賞選考委員……若干名 <u>倫理委員長……1名</u> 倫理委員……7名 顧 問……若干名 会計監査委員……2名

○第3章「役員」第12条に会長に不測の事態が生じた場合に関する項目を追加。注の内容を一部修正。

- 《旧》
- 第12条 会長は、本会を代表し、その学術的、事務的、財政的事項について責任を負う（注）。
- 2 会長は、個人会員の互選により選出する。任期は3年とし、1期に限る。
- 3 会長が任期中に辞任した場合は、選挙の際の次点者を以てこれに当てる。

注) ○第12条第1項について  
会長は就任後の最初の大会で就任講演を行い、その講演はその年度の『言語研究』に公刊される。

- 《新》
- 第12条 会長は、本会を代表し、その学術的、事務的、財政的事項について責任を負う（注）。
- 2 会長は、個人会員の互選により選出する。任期は3年とし、1期に限る。
- 3 会長が任期中に辞任した場合は、選挙の際の次点者を以てこれに当てる。
- 4 会長に不測の事態が生じた場合には、会長が常任委員の中から会長代行を指名する。もしくは常任委員の過半数以上による発議によって常任委員会を招集し、互選により常任委員の中から会長代行を決定する。

注) ○第12条第1項について  
会長は就任後の最初の年度の大会で就任講演を行い、その講演はその年度の『言語研究』に公刊される。

○第3章「役員」第21条の倫理委員の指名、任期に関する項目を修正。

- 《旧》
- 第21条 倫理委員長、倫理副委員長、倫理委員は、倫理委員会を構成し、倫理綱領に基づき、日本言語学会の倫理的諸課題について検討する。
- 2 倫理委員長は、会長が兼任する。
- 3 倫理副委員長は、会長が指名する。
- 4 倫理委員は、会長兼委員長と副委員長が協議の上、個人会員中より指名委嘱する。

- 《新》
- 第21条 倫理委員長、倫理副委員長、倫理委員は、倫理委員会を構成し、倫理綱領に基づき、日本言語学会の倫理的諸課題について検討する。
- 2 倫理委員長は、会長が先任の倫理委員（副委員長を含む）の中より指名委嘱する。任期は半年とする。
- 3 倫理副委員長は、会長が個人会員中より指名委嘱する。任期は半年とする。
- 4 倫理委員は、会長と委員長・副委員長が協議の上、個人会員中より指名委嘱する。任期は1年とし、半数交代制とする。

【別表 1】2020 年度日本語学会決算

自 2020 年 4 月 至 2021 年 3 月

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	12,363,500	刊 行 費	1,649,021
雑 誌 売 上	939,000	発 送 費	311,612
科学 研究 費 補 助 金	3,500,000	事 務 委 託 費	4,500,870
科学 研究 費 補 助 金 利 息	12	大 会 関 係 費	1,437,981
預 金 金 利	701	評 議 員 会 費	0
大 会 関 係 収 入	1,617,000	常 任 委 員 会 費	106,000
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	236,380
寄 付 金	0	大 会 運 営 委 員 会 費	315,178
雑 益	94,120	広 報 委 員 会 費	395,000
基 金 か ら 繰 入	0	夏 期 講 座 委 員 会 費	0
夏 期 講 座 準 備 金 返 納	0	学 会 賞 選 考 委 員 会 費	16,000
		倫 理 委 員 会 費	90,000
		国 際 発 信 力 強 化 小 委 員 会 費	3,075,580
		事 務 局 費	626,900
		学 会 賞 費	140,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	920,500
		夏 期 講 座 経 費	648,000
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言 語 学 文 献 一 覧 編 集 補 助 費	0
		通 信 費	592,900
		消 耗 品 費	141,542
		雑 費	38,195
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	492,738
		税 理 士 顧 問 料	341,000
		法 人 税	70,000
		予 備 費	48,005
		( 基 金 へ の 繰 入 )	
		選 挙 関 係 積 立 金	0
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
		情 報 保 障 関 係 積 立 金	500,000
収 入 合 計	18,514,333	支 出 合 計	17,863,402
前 期 繰 越 金	8,356,105	次 期 繰 越 金	9,007,036
計	26,870,438	計	26,870,438



◇収入内訳（単位：円）

<b>会費</b>		
	国内通常会員	10,846,000
	国内維持会員	20,000
	国内学生会員	812,000
	国内団体会員	465,500
	国内賛助会員	30,000
	在外通常会員	154,000
	在外学生会員	36,000
	合 計	12,363,500
<b>雑誌売上</b>		
	書店販売	939,000
	松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	699,600
	丸善雄松堂	151,200
	紀伊國屋書店	88,200
	その他書店	0
	事務局販売	0
	合 計	939,000
<b>科学研究費補助金</b>		3,500,000
<b>科学研究費補助金利息</b>		12
<b>預金金利</b>		701
<b>大会関係収入</b>		
	大会参加費	1,617,000
	160 回大会	0
	161 回大会	1,617,000
	大会出店料	0
	予稿集売上	0
	託児関係収入	0
	合 計	1,617,000
<b>広告料</b>		0
<b>寄付金</b>		0
<b>雑益</b>		
	2019 年度多様性プロジェクト残額返金	94,120
<b>基金から繰入</b>		0
<b>夏期講座準備金返納</b>		0

## ◇支出内訳（単位：円）

## 刊行費

内 訳	158号 (160 p.)	159号 (142 p.)	計 (302 p.)
印刷費	862,400	749,760	1,612,160
抜刷代	23,661	13,200	36,861
合 計	886,061	762,960	1,649,021

※組版・校正料は印刷費に含む

## 発送費

『言語研究』一斉発送費	158号	152,682
	159号	158,930
合 計		311,612

## 事務委託費

4,500,870

2020年4月分～2021年3月分

日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

374,000円×12ヶ月＋郵便振替受払書類出力12,870円

## 大会関係費

内 訳	第160回	第161回	計
プログラム印刷費	0	0	0
予稿集作成費	154,825	183,425	338,250
その他印刷費/備品	0	0	0
プログラム発送費	0	0	0
その他発送費	0	5,040	5,040
大会費	104,500	938,191	1,042,691
講師謝金等	0	30,000	30,000
託見関係費	0	0	0
手話通訳謝礼	0	0	0
大会実行委員長経費補助	0	0	0
ノートテイキング補助	0	0	0
応募フォーム管理費	11,000	11,000	22,000
合 計	270,325	1,167,656	1,437,981

## 評議員会費

0

<b>常任委員会費</b>	
日当 (3回)	106,000
<b>編集委員会費</b>	
出張校正旅費	4,680
編集補佐謝金	180,000
J-STAGE 投稿査読システム費	51,700
合 計	236,380
<b>大会運営委員会費</b>	
日当 (会議2回, リハーサル, 当日運営)	226,000
会長挨拶等準備謝金 (動画録画)	23,988
大会告知文英訳謝金	5,190
プログラム作成謝金	60,000
合 計	315,178
<b>広報委員会費</b>	
ホームページ保守管理委託費	165,000
Webmaster 経費補助	120,000
SNS 活動費	110,000
合 計	395,000
<b>夏期講座委員会費</b>	
	0
<b>学会賞選考委員会費</b>	
日当 (2回)	16,000
<b>倫理委員会費</b>	
日当 (7回)	90,000
<b>国際発信力強化小委員会費</b>	
日当 (2回)	36,000
英文要旨作成ワークショップ (日当, Zoom, 謝金, 動画編集)	240,920
会長就任講演論文英訳・翻訳・編集謝金 (5編)	2,481,500
第161回大会公開講演動画 (Zoom, 講演謝金, 動画編集)	317,160
合 計	3,075,580

<b>事務局費</b>	
日当	10,000
メールアドレス作成	3,300
動画撮影機材購入	13,600
事務局長, 事務局委員活動費	600,000
合 計	626,900
<b>学会賞費</b>	
論文賞副賞 (2 件)	100,000
発表賞副賞 (4 件)	40,000
合 計	140,000
<b>多様性プロジェクト (公募型) 費</b>	920,500
<b>夏期講座経費</b>	
講師謝金	615,000
参加登録システム費用	33,000
合 計	648,000
<b>言語系学会連合費</b>	50,000
<b>CIPL 負担金</b>	120,000
<b>CIPL 言語学文献一覧編集補助費</b>	0
<b>通信費</b>	
切手購入, 通常発送費	35,226
みずほ銀行ビジネス Web 使用料	39,600
会費請求・督促送料	160,534
オンラインクレジット決済手数料	151,972
自動引落手数料	50,105
送金手数料	122,370
残高証明発行手数料	1,753
『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料	31,340
合 計	592,900
<b>消耗品費</b>	
振替用紙印刷費	50,792
封筒印刷費	90,750
合 計	141,542

**雑費**

『言語研究』157号（印刷費・発送・抜刷代）前年度未計上分 38,195

**名簿作成費**

0

**選挙関係費**

Web 選挙システム運用費	308,000
選挙案内印刷費	55,440
長3封筒	21,560
選挙案内送料	107,738

---

合 計	492,738
-----	---------

**税理士顧問料**

顧問料	198,000
年末調整・法定調書作成	33,000
決算料	110,000

---

合 計	341,000
-----	---------

**法人税**

法人市民税	50,000
法人府民税	20,000

---

合 計	70,000
-----	--------

**予備費**

日本学術振興会賞推薦書籍購入・資料コピー代	1,705
GEAHSS 分担金	10,000
『言語研究』掲載追悼文ホームページ掲載作業（14編）	36,300

---

合 計	48,005
-----	--------

**基金への繰入**

多様性プロジェクト（公募型）	500,000
夏期講座	500,000
情報保障関係	500,000

---

合 計	1,500,000
-----	-----------

## ◇ 2020 年度決算 予算・実績対照表

収入 (単位:円)

科目	予算	実績	対予算差異
会費	12,000,000	12,363,500	363,500
雑誌売上	600,000	939,000	339,000
科学研究費補助金	3,500,000	3,500,000	0
科学研究費補助金利息	0	12	12
預金金利	500	701	201
大会関係収入	1,000,000	1,617,000	617,000
広告料		0	0
寄付金		0	0
雑益		94,120	94,120
基金から繰入		0	0
夏期講座準備金返納		0	0
収入合計	17,100,500	18,514,333	1,413,833
前期繰越金	8,356,105	8,356,105	0
合計	25,456,605	26,870,438	1,413,833

支出 (単位:円)

科目	予算	実績	対予算差異
刊行費	4,200,000	1,649,021	2,550,979
発送費	400,000	311,612	88,388
事務委託費	4,406,400	4,500,870	△ 94,470
大会関係費	3,000,000	1,437,981	1,562,019
評議員会費	200,000	0	200,000
常任委員会費	500,000	106,000	394,000
編集委員会費	1,500,000	236,380	1,263,620
大会運営委員会費	500,000	315,178	184,822
広報委員会費	1,000,000	395,000	605,000
夏期講座委員会費	200,000	0	200,000
学会賞選考委員会費	250,000	16,000	234,000
倫理委員会費	500,000	90,000	410,000
国際発信力強化小委員会費	800,000	3,075,580	△ 2,275,580
事務局費	900,000	626,900	273,100
学会賞費	200,000	140,000	60,000
多様性プロジェクト(公募型)費	1,000,000	920,500	79,500
夏期講座経費	645,000	648,000	△ 3,000
言語系学会連合費	50,000	50,000	0
C I P L 負担金	120,000	120,000	0
C I P L 言語学文献一覧編集補助費	200,000	0	200,000
通信費	900,000	592,900	307,100
消耗品費	350,000	141,542	208,458
雑費	0	38,195	△ 38,195
名簿作成費		0	0
選挙関係費	900,000	492,738	407,262
税理士顧問料	334,800	341,000	△ 6,200
法人税	70,000	70,000	0
予備費	830,405	48,005	782,400
(基金への繰入)			
選挙関係積立金	0	0	0
多様性プロジェクト(公募型)積立金	500,000	500,000	0
夏期講座積立金	500,000	500,000	0
情報保障関係積立金	500,000	500,000	0
支出合計	25,456,605	17,863,402	7,593,203
次期繰越金	0	9,007,036	△ 9,007,036
合計	25,456,605	26,870,438	△ 1,413,833

◇資産勘定

2021年3月31日(単位:円)

借方	金額	貸方	金額
事務支局		前受会費	
現金	203,381	国内通常	70,000
みずほ銀行口座	9,218,959	国内学生	31,000
郵便振替口座	917,045	在外通常	14,000
	624,652	在外学生	156,000
未収金*	699,600	未払金**	2,292,970
		源泉税預り金	92,631
		次期繰越	9,007,036
計	11,663,637	計	11,663,637

\* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2020年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内 訳	金額
雑誌売上(松香堂分)	699,600
合 計	699,600

\*\* 未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。

2020年度決算の未払金の内訳は以下の通り。

内 訳	金額
『言語研究』159号印刷費	749,760
『言語研究』159号抜刷代	13,200
『言語研究』159号発送費	147,440
『言語研究』159号封筒代	26,400
常任委員会費	68,000
通信費/送金手数料	8,580
編集委員長補佐謝金	40,000
大会発表応募フォーム費用	22,000
会長就任講演論文校閲・翻訳謝金	396,620
オンラインクレジットシステム利用料	39,600
事務委託費3月	374,000
郵便振替受払書類出力作業費	12,870
ホームページ保守管理委託費	165,000
税理士顧問料1~3月	49,500
税理士決算料	110,000
法人税	70,000
合 計	2,292,970

## ◇基金 決算

基金 損益計算書 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計（前期繰越）	11,005,569	一般会計へ支出	0
一般会計から繰入	1,500,000		
定期預金金利	132		
収入合計	12,505,701	支出合計	0
		次期繰越金	12,505,701
計	12,505,701	計	12,505,701

基金 資産勘定 2021年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	8,700,000	積立金	12,505,701
京都銀行定期預金口座	3,805,701		
計	12,505,701	計	12,505,701

○基金内訳（目的別） 2021年3月31日 (単位：円)

記念大会積立金	1,000,785
夏期講座積立金	3,801,087
危機言語プロジェクト積立金	703,044
e-ジャーナル積立金	2,500,785
言語学普及積立金	500,000
多様性プロジェクト（公募型）積立金	2,300,000
選挙積立金	700,000
情報保障関係積立金	1,000,000

計 12,505,701



○基金内訳（銀行別）

2021年3月31日（単位：円）

銀行名	預かり番号	名目	金額
京都銀行	003	記念大会積立金	1,000,785
みずほ銀行	078	夏期講座積立金	700,000
みずほ銀行	081	〃	500,000
みずほ銀行	082	〃	200,000
みずほ銀行	085	〃	500,000
みずほ銀行	088	〃	500,000
京都銀行	005	〃	1,401,087
みずほ銀行	074	危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	001	〃	403,044
京都銀行	004	e-ジャーナル積立金	1,000,785
みずほ銀行	073	〃	1,000,000
みずほ銀行	075	〃	500,000
みずほ銀行	076	言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	077	多様性プロジェクト（公募型）積立金	300,000
みずほ銀行	079	〃	500,000
みずほ銀行	080	〃	500,000
みずほ銀行	083	〃	500,000
みずほ銀行	084	〃	500,000
みずほ銀行	086	選挙関係積立金	200,000
みずほ銀行	089	〃	500,000
みずほ銀行	087	情報保障関係積立金	500,000
みずほ銀行	090	〃	500,000
計			12,505,701

## 【別表2】2021年度日本語学会予算

自 2021年4月 至 2022年3月

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	12,000,000	刊 行 費	4,200,000
雑 誌 売 上	600,000	発 送 費	400,000
科学研究費補助金	4,000,000	事 務 委 託 費	4,406,400
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	3,000,000
預 金 金 利	500	評 議 員 会 費	200,000
大会関係収入	1,600,000	常 任 委 員 会 費	500,000
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	1,500,000
寄 付 金	0	大会運営委員会費	500,000
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	1,000,000
基金からの繰り入れ	0	夏 期 講 座 委 員 会 費	200,000
夏期講座準備費返納	0	学 会 賞 選 考 委 員 会 費	250,000
		倫 理 委 員 会 費	500,000
		国 際 発 信 力 強 化 小 委 員 会 費	3,500,000
		事 務 局 費	900,000
		学 会 賞 費	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト ( 公 募 型 ) 費	1,000,000
		夏 期 講 座 経 費	0
		言 語 系 学 会 連 合 費	50,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL言語学文献一覽編集補助	200,000
		通 信 費	900,000
		消 耗 品 費	350,000
		雑 費	0
		名 簿 作 成 費	
		選 挙 関 係 費	0
		税 理 士 顧 問 料	334,800
		法 人 税	70,000
		予 備 費	1,302,916
		( 基 金 へ の 繰 入 )	
		名 簿 作 成 積 立 金	
		選 挙 関 係 積 立 金	200,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト ( 公 募 型 ) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
		情 報 保 障 関 係 積 立 金	500,000
		基 金 預 け 替 え	0
取 入 合 計	18,200,500	支 出 合 計	27,284,116
前 期 繰 越 金	9,083,616	収 支 差 額 ( 次 期 繰 越 金 )	0
合 計	27,284,116	合 計	27,284,116

第 162 回大会

期日 2021 年 6 月 26 日 (土)・27 日 (日)

会場 Zoom

公開シンポジウム 6 月 27 日 (日) 13:30 ~ 16:40

「言語の科学とテクノロジーが描く未来社会のビジョン」

司会：酒井 弘

(S-1) Toward a speech neuroprosthesis

Edward CHANG

(S-2) マイボイス：言語学と医療の接点の一例として

川原 繁人

(S-3) 学習データの言語学：機械学習における言葉の選択

佐野 大樹

(S-4) Designing language technologies with indigenous people

Steven BIRD

口頭発表

—第 1 日 (6 月 26 日 (土)) 10:00 ~ 16:50—

◦ A 会場

(A-1) 10:00 ~ 宮崎県椎葉村尾前方言における最小語制約：修飾要素の有無、後続する接語の種類に着目して

松岡 葵

(A-2) 10:40 ~ 鹿児島県中西部方言の自然音類：鼻音系とではなく、清音系と中和する濁音系

黒木 邦彦

(A-3) 11:20 ~ 宮古狩俣方言の結果相 *ufu* の文法化—統語と意味のミスマッチ—

衣畑 智秀

(A-4) 13:00 ~ 音韻論的記述への計算モデルのアプローチ—音便変化のモデリングによる検証—

岸山 健

(A-5) 13:40 ~ 現代口語シンハラ語の前鼻音化子音と鼻音—非鼻音子音連続の判別に寄与する音声的要素

竹内 晶

(A-6) 14:20 ~ 日本語における同音異アクセント語の語彙活性—意味ブライミングによる検討

有賀 照道

(A-7) 15:00 ~ Another complex phenomenon posing a problem for Parallel Optimality Theory

Hiroki KOGA

(A-8) 15:40 ~ The stress system in the Aohua dialect of Yilan Creole: with a special focus on weight-sensitivity

Kaidi LIN

◦ B 会場

(B-1) 10:00 ~ 複文におけるフレームの重ね合わせ—「～が引き金になって」などの例を中心に—

氏家 啓吾

(B-2) 10:40 ~ ただの読点、だけどね：構文構成要素としての読点

堀内ふみ野

(B-3) 11:20 ~ 理由を表すことに用いる「V テミロ」について

中山 俊秀

(B-4) 13:00 ~ 尊敬語の種類論

富山 晴仁

(B-5) 13:40 ~ 韓国語における新奇なモノ敬語の容認性に与える要因の考察

山田 彬堯

丁 仁京

滝浦 真人

林 炫情

玉岡賀津雄

(B-6) 14:20 ~ 日韓における条件を表す「なら」と「-tamyen」の対照分析

尹 聖樂

(B-7) 15:00 ~ -less と -free の語形成再考

萩澤 大輝

(B-8) 15:40 ~ *So-inversion construction* の談話機能：倒置が適用された *as* 節との共通点

徳永 和博

(B-9) 16:20 ~ メタ言語的条件文とメタメタファー的条件文についての考察

森 創摩

◦ C 会場

- (C-1) 10:00 ~ キルギス語の /r/ 連続における /l/ の交替の再解釈 菅沼健太郎  
アケマクエフ ジャシムク
- (C-2) 10:40 ~ カムサ語の動詞における数の標示 蝦名 大助
- (C-3) 11:20 ~ Mermaid construction in Tatar Chihiro TAGUCHI
- (C-4) 13:00 ~ 西オーストロネシア諸語の看過される裸態構文 野元 裕樹
- (C-5) 13:40 ~ アイク語の結合価 山本 恭裕
- (C-6) 14:20 ~ パイワン語における *i-* の特徴—「*i+* 名詞」と「*i+* 斜格 + 名詞」の比較より— 大谷 青渚
- (C-7) 15:00 ~ ラテン語の不定詞付き対格構文における格配列の最適性理論による説明 中村 渉
- (C-8) 15:40 ~ レーベンシュタイン距離を用いた歴史言語学の仮説評価方法の構築：スラヴ語派における印欧祖語 \**-eyes* の反映形の問題等を例として 大山 祐亮
- (C-9) 16:20 ~ ヒットイト語のナラティブにおける歴史的現在の談話機能 大亦菜々恵  
。D 会場
- (D-1) 10:00 ~ 日本手話におけるいわゆる動詞句削除現象—SASS による CL 動詞に注目して 上田由紀子  
内堀 朝子
- (D-2) 10:40 ~ 日本語における疑問文断片の非明示的 WH 疑問解釈—削除分析への反論— 永次 健人
- (D-3) 11:20 ~ X-V 型の動詞由来複合語とスルの具現について 秋本 隆之
- (D-4) 13:00 ~ ドイツ語の長距離受身構文における複合動詞形成 高畑 明里
- (D-5) 13:40 ~ ドイツ語の動詞及び前置詞句命令文に於ける主語と聞き手の同一性 藤井 俊吾
- (D-6) 14:20 ~ 繫辞残留現象 中野 晃希
- (D-7) 15:00 ~ 中世低地ドイツ語コーパスから見るデンマーク語従属節語順への言語接触の影響 大西 貴也
- (D-8) 15:40 ~ ドイツ語の感嘆文の形式意味論による分析 伊藤 克将  
。E 会場
- (E-1) 10:00 ~ 借用語受容における言語的要因と社会的要因：ビルマ語群北部位語群の語彙借用 倉部 慶太
- (E-2) 10:40 ~ ナガミーズ語の借用語音韻論と多重語の形成 村上 武則
- (E-3) 11:20 ~ 移動類型論における主動詞の概念—バスク語の動詞と行為副詞の観点から— 石塚 政行
- (E-4) 13:00 ~ アラビア語チュニス方言の未完了形における非現実性と時間 熊切 拓
- (E-5) 13:40 ~ ウェブデータから言語変化を捉える：タガログ語の *sana all* の分析 長屋 尚典  
林 真衣  
細羽 洸希
- (E-6) 14:20 ~ ランバ語の動詞分類と叙述類型論 牧野 友香
- (E-7) 15:00 ~ From perfect to modal past: distinguishing between two usages of the Old Japanese suffix *-kyer-* Artemii  
KUZNETSOV
- (E-8) 15:40 ~ 兵庫方言のアスペクト形式における音形と意味のバリエーション 鴨井 修平  
。F 会場
- (F-1) 10:00 ~ 左下前頭皮質への経頭蓋電気刺激による文理解の促進効果の検討 太田 真理
- (F-2) 10:40 ~ 中央アラスカ・ユピック語における文法関係の判断—格・一致・語順の影響— 江村 玲

- (F-3) 11:20 ~ 日本語の文理解における類似した項の間の干渉効果の発見 磯野真之介  
 広瀬 友紀  
 (F-4) 13:00 ~ 比較副詞としてのマダの意味分析 宮田 瑞穂  
 (F-5) 13:40 ~ コピュラ文述部に置かれる最上級形容詞の部分的読みにつ 松延比呂伎  
 いて  
 (F-6) 14:20 ~ Question under Discussion-based analysis of Japanese ellipse Tomoya TANABE  
 Yurie HARA

ポスター発表

—第1日(6月26日(土))16:20~17:00—

- (P-1) ペルシア語形容詞の段階性—過去分詞と同形の形容詞に関 五十嵐小優粒  
 する—考察—  
 (P-2) 日本語並列名詞句における語順決定要因の検討 吉田 眞三  
 中野 陽子

ワークショップ

—第2日(6月27日(日))10:00~12:00—

◦ワークショップ1

- (W-1) 言語理論における真の説明を目指して 司会者:中島 崇法  
 (W-1-1) 極小主義理論の基礎仮説群 林 慎将  
 (W-1-2) MergeからMERGEへ 杉本 侑嗣  
 (W-1-3) 理論的帰結と分析(I) シークエンス形成と等位接続構造に 大宗 純  
 ついて  
 (W-1-4) 理論的帰結と分析(II) コピー形成とコントロール構文に 中島 崇法  
 ついて

◦ワークショップ2

- (W-2) サンスクリット語研究の過現未 企画者:川村 悠人  
 司会者・コメンテーター:小林 正人  
 (W-2-1) *dehi-edhi*の法則:印欧祖語 \*d<sup>h</sup>に由来するサンスクリット *ḍ* 大山 祐亮  
 (W-2-2) サンスクリットにおける受取手のとる格の選択基準—受益 張 倩倩  
 性と有生性に関する非対称性から  
 (W-2-3) 『リグ・ヴェーダ』讃歌の特徴を示す分散表現から得られる 塚越 柚季  
 文書間類似度

◦ワークショップ3

- (W-3) 「~かのように」語ることばたち:伝え方の意味論に向けて  
 企画者:松田 俊介  
 司会者:西村 義樹  
 コメンテーター:西村 義樹  
 野村 益寛  
 (W-3-1) 仮想変化表現の射程 野中 大輔  
 (W-3-2) ギャップを埋めるデフォルト表現 松田 俊介  
 (W-3-3) 非典型的な語彙的使役構文における「かのように」性 長谷川明香  
 (W-3-4) 「かのように」の見えづらさから見えてくるもの 田中 太一

◇退 会

国内通常会員：80名  
在外通常会員：4名  
国内維持会員：1名  
国内学生会員：29名  
在外学生会員：1名  
国内团体会員：1名  
116名

◇入 会

国内通常会員：22名  
在外通常会員：2名  
国内学生会員：22名  
46名